



「海への感謝の心から  
生まれた清掃活動です」

NPO法人 **長崎ビーチサービス** 代表 そう ばる 草原 達也



## 日本で3番目にサーファーが中心となって立ち上げた清掃活動団体

「僕たちはいつも海に入るときは、マリンスポーツをさせてもらってるっていう感謝の気持ちを、おじゃましますって言葉に託してるんです。清掃活動も、そんな海への感謝の心から始まりました」と真っ黒に日焼けした笑顔で語るのは、NPO法人長崎ビーチサービスの代表を務める草原達也さん(41歳・長崎市在住)。草原さんは、平成7年より任意団体として海岸沿岸清掃や保護活動を行うとともに、マリンスポーツの普及や競技力向上

を図り、平成16年にNPO法人格を取得。現在、160名ほどのビーチボランティアにより運営を行っています。「最初はサーフィンする前に流木などを片付けたり、ゴミを拾ったりすることから始まりました。野球場やテニスコートなどは管理者・掃除する人がちゃんといるけど、海はいないですよね。だったら、海を使う人みんなできれいにしようよと呼びかけたんです。みんな気持ちよく賛同してく



て、今ではたくさんの方が清掃活動に参加してくれるようになりました。」という言葉通り、今では定例的で大規模な海岸愛護活動(長崎市、西海市)に成長、取材当日も悪天候にかかわらず50名以上のサーファーが清掃活動に励んでいました。また、NPO法人長崎ビーチサービスでは、国土交通省から河川の水質調査事業を、環境省から漂着物調査を受託。平成18年の大規模漂着流木災害の際も除去作業等に参加する等、その活動は高く評価されています。ボランティアの多くが20、30代の若者で構成されているというのも特徴、草原さんのリーダーシップの賜物といえます。

「これからは第二、第三の、同じテーマのNPOが誕生してくれたらいいなと思います。長崎県の海岸線は長いだけでなく、きれいな海岸ですからね、もっと大事にしないとね」

草原さんの海への思いはマリンスポーツ愛好家だけでなく、海にかかわるみんなへ伝えたい思いでもあります。

「これからは第二、第三の、同じテーマのNPOが誕生してくれたらいいなと思います。長崎県の海岸線は長いだけでなく、きれいな海岸ですからね、もっと大事にしないとね」

草原さんの海への思いはマリンスポーツ愛好家だけでなく、海にかかわるみんなへ伝えたい思いでもあります。

